

マーケットの動き（2026年8月31日～9月4日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。週初は、原油高によるインフレ懸念や利上げ観測の高まりを背景に長期金利は上昇しました。その後、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官の発言を受けて早期利上げ観測が後退し、金利は一時低下したものの、4日発表の8月雇用統計の上振れを受け利上げ観測が再び高まり長期金利は上昇して週を終えました。

欧州国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2026年9月）

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともにレンジ内で推移

米国：政府の国債発行とAI関連企業の大規模投資に向けた社債発行の双方による長期資金調達の動きは長期金利の上昇要因とみられます。一方、インフレ懸念の後退は低下要因とみられ、長期金利はレンジ内で推移するとみています。

欧州：ECB（欧州中央銀行）による早期の利上げ観測が広がる中、景気については財政拡張政策に支えられるものの、熱波の影響で一部に落ち込みが懸念されています。ドイツ長期金利はレンジ内で推移するとみています。

	9月4日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.78	0.05	0.16	0.69	0.62
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	666.32	▲2.48%	▲0.96%	▲1.59%	7.00%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

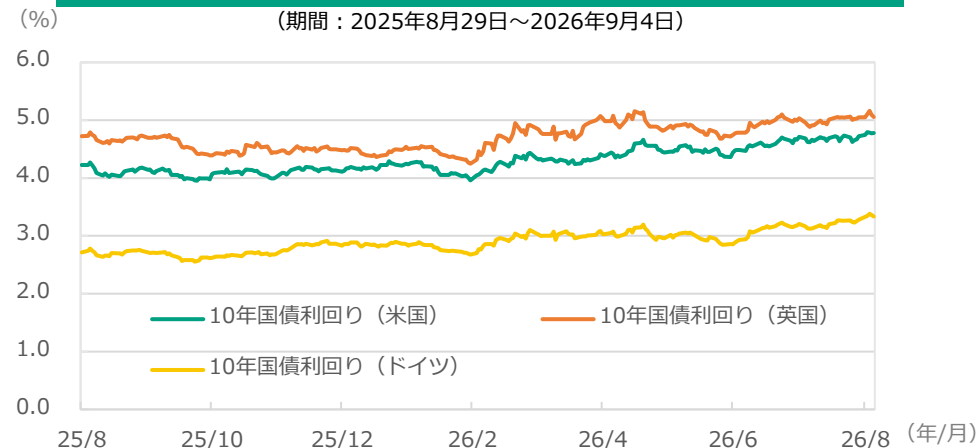
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202609_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

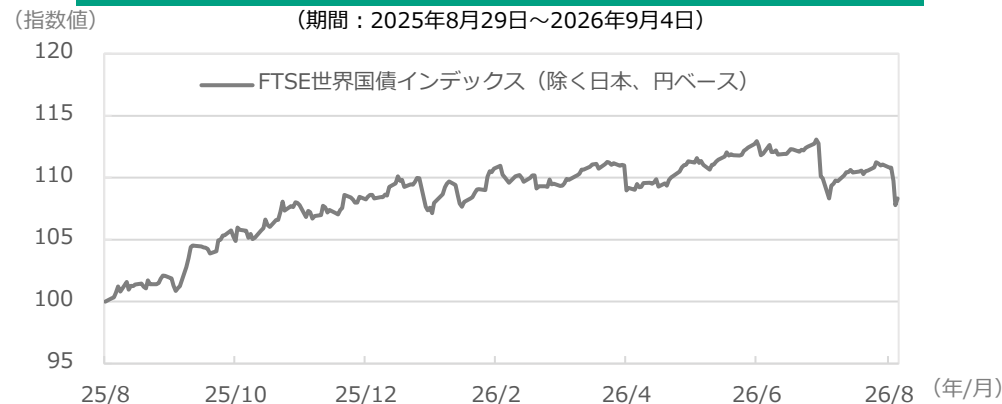
主要国国債利回りの推移

（期間：2025年8月29日～2026年9月4日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2025年8月29日～2026年9月4日）



※2025年8月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成